センターだより

第62号
令和3年10月4日
発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123　青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997FAX017-728-6351

授業でのタブレット活用方法等の紹介

ロイロノート SCHOOL の活用方法の紹介（一例）（義務教育課）

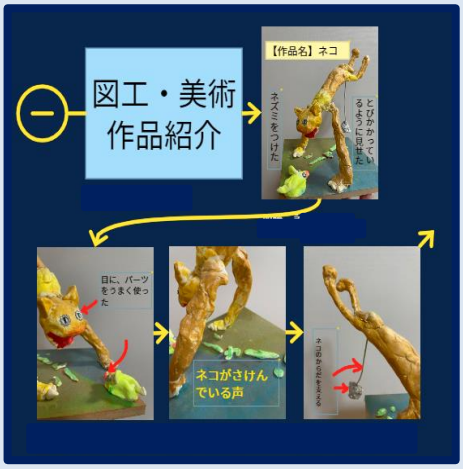
思考ツールで考えや情報を整理し「可視化」する

多くの「思考」ツールが標準で準備されています。児童生徒が自ら考え表現する協働的な学びへとつながります。

一人一人の意見や考えをみんなで「共有」する

児童生徒の意見や考えを、短時間で回収・提示できます。一覧から選択し比較したり、個別の意見を採り上げたりできます。

学習の過程やまとめを1つにつなげて「発表」する



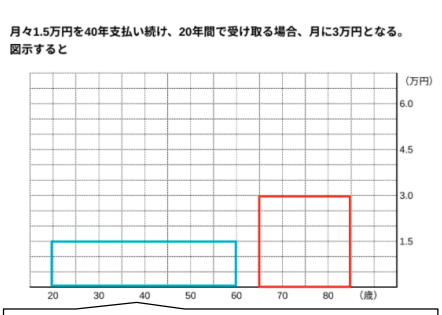
学んだことをまとめたカードをつなげることで、「発表」することができます。学習の振り返りや学習評価につながります。

高校におけるICTを活用した授業の提案（高校教育課）

国のGIGAスクール構想による、小中学校への１人１台端末の整備を踏まえ、県立高校にもWi−Fi設備及び１人１台端末の整備が進んでいます。高校教育課では、効果的にICTを活用した授業事例について、研究を進めています。今回は、3事例を提案します。

公民（現代社会）

★キーワード：「共同編集」
★ツール：Google Classroom
★内容：「日本の年金制度」

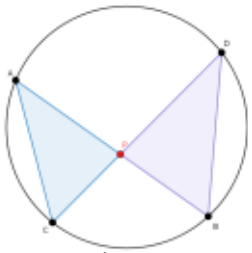


年金の「支払い」と「受け取り」の関係性について、グループで図示するという共同作業ができます。

同じファイルに共同編集することで、生徒同士の考えを確認しながら、学習を進めることができます。

数学（数学A）

★キーワード：「シミュレーション」
★ツール：GeoGebra
★内容：「図形の性質」



※GeoGebraとは数学学習・数学教育用の無料のデジタルツールです。

円周上の点を動かすことができ、点の移動により、様々な図形に変形させることができます。

自分で図形を動かしながら試行錯誤することで、与えられた図形の性質を視覚的に捉えることができます。

理科（物理）

★キーワード：「動画」
★ツール：PowerPoint
★内容：「等加速度直線運動」

実験動画を授業で使用するPowerPointに組み入れることで、実験の様子を何度も確認することができます。

PowerPointの音声記録の機能で動画として保存すれば、オンデマンドでの動画配信も可能です。

２年目研究員研究の紹介　vol.５

研究主題

教育相談課 研究員 長瀬 友起

中学校における
生徒の教師に対する信頼感を高める関わり方の研究
ー校内研修を活用したコーチング力の向上を通してー

自分自身の経験から

「生徒のために」と思って言ったつもりが、うまく伝わらない…。
時代の変化とともに自分自身も生徒との関わりについて変化していかなければならないと感じるようになりました。
新しい知識を身に付けたいが、学校現場にいると忙しくてなかなか学ぶ機会が少ない…。
これを解消するプログラムはないかと考えました。

生徒の自尊感情を高めるような関わりをすることで教師に対する信頼感が高まるのでは？

そこで！

短時間で**継続的**な**研修**　＋　相手を肯定的に認め、ありのままを受け入れる**コーチング**

先生方の業務に負担にならないようなコーチング・プログラムを作成しました！

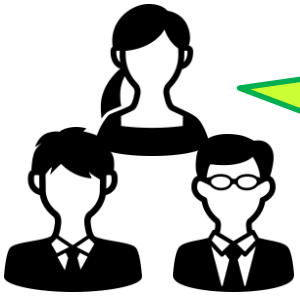
コーチングの基本的な考え方

誰もが**無限の可能性**をもっている
必要とする答えは、**その人自身**がもっている
答えを**引き出す**パートナーになる

傾聴　**承認**　**質問**

コーチングの中で最も重要と言われる「傾聴」「承認」「質問」からすぐに実践できると思われるスキルをピックアップし、週１回程度１５分間の校内研修を設定しました。

	時間	スキル	内　容
1	30分	傾聴	コーチングについて（ティーチングとの比較） 「アイコンタクト・うなずき・あいづち etc.」
2	15分	承認①	「フィードバック」
3	15分	承認②	「Iメッセージ」
4	15分	承認③	「リフレーミング」
5	15分	質問①	「４W1H」
6	15分	質問②	「If」
7	15分	質問③	「スケーリング・クエスチョン」
8	15分	質問④	「ヒーロー・インタビュー」



★教師の感想（一部）
・研修を受けて、生徒への接し方・言葉がけなど我々教師の意識改革につながった。
・定期的に短く行われる研修は一度に長時間やるよりわかりやすかった。
・プラスの言葉で接すれば、生徒もプラスの反応をしてくれることが実感できた。

内容の詳細はあおもり教育研究発表会２０２１でお伝えします！

２年目研究員研究の紹介　vol.6

研究主題

義務教育課 研究員 澤田　秀史

小学校国語科において、意見文を書く力を育成する指導法の研究
ー説明的な文章の単元で語彙と文章構成の指導を
関連させた学習を通してー

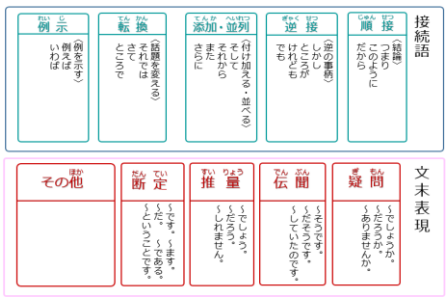
研究内容
　領域「書くこと」における語彙と文章構成の力を高める学習をすることによって、論理的な意見文を書くことができるのではないかという研究です。

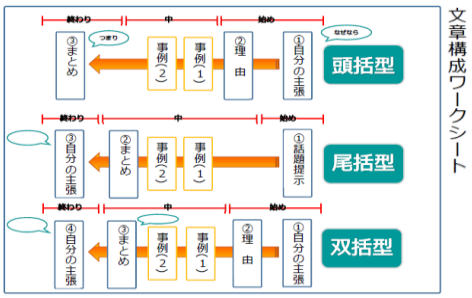
「書く力」のとらえ

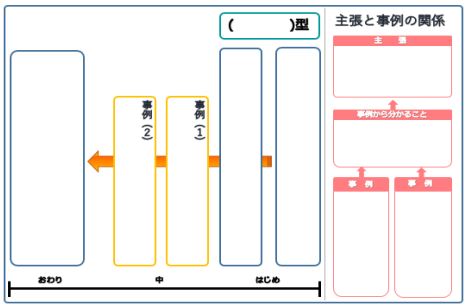
語 彙 力 ＋ **文章構成力** ⇒ **論理的な意見文**

語彙リスト
語彙ワークシート

文章構成ワークシート







論理的な意見文とは

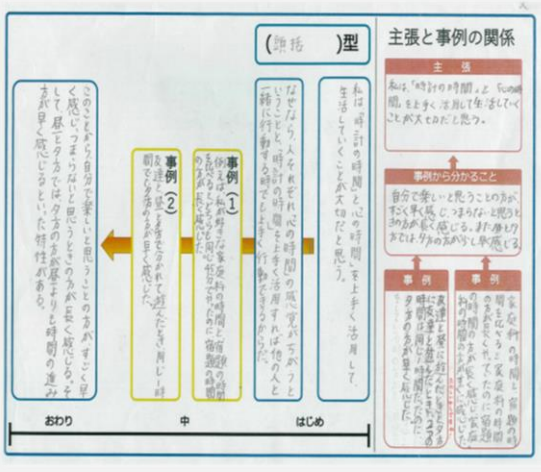
①「はじめ・中・おわり」が意識され、頭括・尾括・双括型等の構成で書かれている。

②事例が提示され、主張と事例に整合性が取れている。

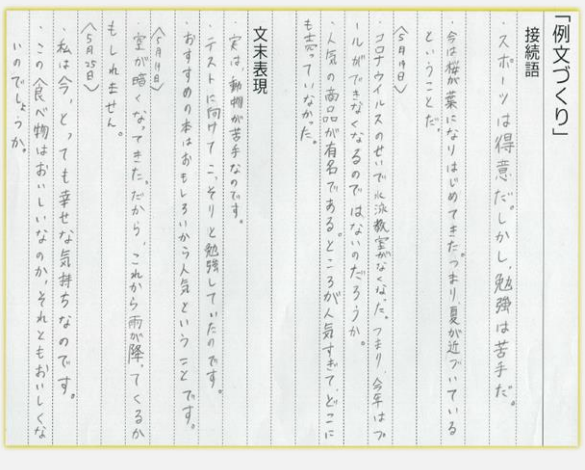
③接続語と文末表現が正しく使われ、重要語彙が適切に使われている。

【授業の様子】

文章構成ワークシートで意見文の構成を考える



教科書の本文にある接続語や文末表現を使って例文をつくる



２年目研究員研究の紹介　vol.7

義務教育課 研究員 接待 裕行

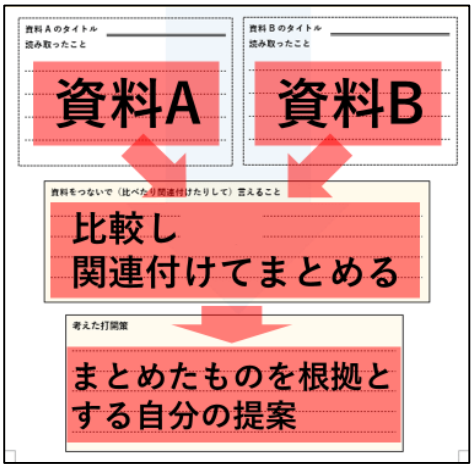
研究主題
中学校社会科地理的分野において、複数の資料を比較し、関連付けて
多面的・多角的に考察し、判断する力を育てる指導法の研究
－つなげて考えをつくるチャートと地域の在り方を構想する学習活動を通して－

こんな願いのもとに研究を進めています。

〇社会科の学習を通して、多くの情報を読み取り、根拠をしっかりさせて自分の意見を考えたり、判断したりすることのできる生徒を育成したい。
〇生徒が自分たちの住む地域の課題について、自分の考えをもち、地域社会を担っていくという社会参画意識を育みたい。

手立て

「つなげて考えをつくるチャート」を開発しました。
〇2つの資料を比較したり、関連付けたりして自分の意見を構築していく目的のワークシートです。
〇資料をまとめたものを横並びにして、比べやすくしました。
〇上から下へと、自分の考えを形成していく流れです。



今年度の検証授業から

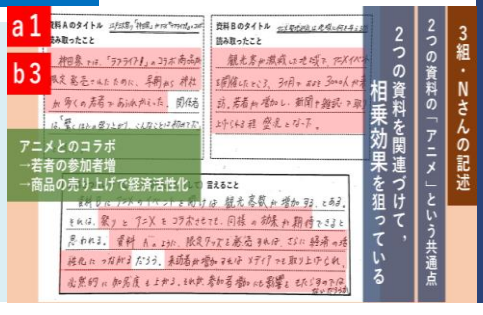
（八戸市立白山台中学校・2学年）

「つなげて考えをつくるチャート」を中学校学習指導要領で新設された
地理的分野「地域の在り方」の単元で使いました。

〇日本の諸地域「東北地方」の学習直後に「地域の在り方」単元を実施しました。
〇生徒が自分たちの暮らす地域の八戸三社大祭を題材に、少子高齢化による曳き子・後継者不足、祭りの持続可能性などに着目して、地域の在り方を構想する学習活動を行いました。
〇単元を通して、八戸三社大祭の曳き子・後継者不足解決の打開策を考えました。
〇新聞記事、グラフ、インターネットなど様々な資料を読み取る活動をしました。（タブレットの活用）
〇つなげて考えをつくるチャートを使い、2つの資料を比較したり、関連付けたりしてまとめ、自分の考えの根拠としました。
〇スライドにまとめ、八戸市観光課長とリモートでつなぎ、実際に生徒が発表、提案し、講評をいただきました。（外部人材の活用）

検証授業結果の分析と成果

分析
〇つないで考えをつくるチャートの生徒の記述を分析し、比較・関連付けて考察し判断する力の高まりをみていきます。



成果の中間報告
〇比較・関連付けの思考スキルで、質の向上がみられました。
〇生徒が当事者意識をもち、地域の課題の打開策を考えたことで、主体的に学習に取り組む態度の向上がみられました。

２年目研究員研究の紹介　vol.8

特別支援教育課 研究員 阿部 忍

研 究 主 題
中学校の通常の学級における生徒のつまずきや困難さに対する教員の関心の高まりを目指す研究
－ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを通して－

中学校の通常学級の技術・家庭科を担当していた私自身の経験として、次のような生徒の実態がありました。

生徒について	生徒の実態	作業の説明を聞いた直後にもかかわらず、「何したらいいの？」と周囲に作業内容を聞いていた。
	考えられるつまずきや困難さ	・何か別なことに気を取られて聞きもらしがあったかもしれない。 ・音の聞き分けが難しいのかもしれない。 ・話し言葉による指示の理解が難しいのかもしれない。 ・短期記憶が弱いのかもしれない。　ほか
教師として（こうすればよかったのかもしれない）		・生徒の注意を引きつける言葉がけをしてから指示を出す。 ・指示を書いて視覚的に示す。

一例として挙げましたが、全ての生徒が「わかる・できる」授業にするために、生徒のつまずきや困難さを予想した手立てを講じた授業づくりの必要性を感じました。

中学校学習指導要領解説の各教科等編には「通常の学級においても、発達障害を含む障害のある生徒が在籍している可能性があることを前提に、全ての教科等において、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援ができるよう、障害種別の指導の工夫のみならず、各教科等の学びの過程において考えられる困難さに対する指導の工夫の意図、手立てを明確にすることが重要である。」とあるように、通常の学級でもつまずきや困難さをもった生徒がいることを前提とした授業づくりの大切さが示されています。さらに学習指導要領解説総則編では、「障害のある生徒などの指導に当たっては、担任を含む全ての教師間において、個々の生徒に対する配慮等の必要性を共通理解するとともに、教師間の連携に努める必要がある。」と示されているように，中学校は教科担任制であることから，教科を担当する教師それぞれが生徒個々の困難さを共通理解した上で指導に当たる必要があると感じています。

本研究では，私自身によるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を公開し，教科担任制である中学校の先生方が共通の観点で授業参観することで，担任を含むすべての教師間において個々の生徒に対する配慮等の必要性を共通理解し、それらに対する教員のさらなる関心の高まりを目指すことにしました。

取組の流れ

時期	私	研究協力校の先生
令和2年度 12月	研究協力校の全ての先生方の授業参観 **生徒の実態把握**	授業実施
令和3年度 5月～7月	**公開授業**（1～5時間目） 授業内容：技術・家庭　技術分野　D 情報の技術 **1～5時間目生徒の実態と先生方の感想を基に授業改善** **提案授業**（6時間目）	授業参観
	授業検討会 **協議の柱　① 気になる生徒の姿（様子）　②私ならこんな手立て（支援）を考える**	

先生方の感想（一部紹介）
- 「ディスプレイから目を離さないでください！」の指示が効果的でした!!
- 聞き逃す生徒にとってはワークシートや教師の実演が有効であった。

今後は、先生方からいただいた感想等の記述を質的に分析し、その結果をあおもり教育研究発表会2021でお伝えします。